

羽地ダム上流域におけるアオバラヨシノボリの減少について（中間報告）

北部ダム統合管理事務所羽地ダム管理支所 下地朝治

1. 目的

羽地ダムは治水・利水の両面で地域の発展に貢献するとともに、ダム事業が環境に与える影響を極力小さくするための設計・工法の採用や生息・生育の場が失われる動植物については周辺の生息・生育地の新たな創出を行うなどの環境保全措置に積極的に取り組むとともに環境に与える影響に対してモニタリング調査を実施するなどの、保全対策等の対応を図ってきた。

その一環として、羽地ダムに流入する河川に生息する絶滅危惧 IB 類アオバラヨシノボリの重点調査を試験湛水前（平成11年）から継続して行ってきたが、平成20年度、平成21年度の調査において生息個体を確認することができず、絶滅が危惧される状況となっている。本報告はH21年度までの調査結果に基づく報告である。

2. 内容

これまでに実施された一連の調査により、羽地ダム流入河川では、アオバラヨシノボリ個体群の縮小が確認されていたが、流入河川の上流域では継続して生息が確認されていたことから、個体群自体は縮小しながらも、安定してきているものと考え、定期的にモニタリング調査を続け、動態を見守ることとしていた。しかし、平成20年度実施した調査において、アオバラヨシノボリが確認されなかつたことから、大幅な個体群の縮小が疑われた。そこで、平成21年度も、比較的確認の行いやすい繁殖期を中心に、主要な流入河川のすべてで調査を行ったが、生息を確認することはできなかった。結果的に、最近2年間の調査では何れもアオバラヨシノボリを確認することができておらず、羽地ダム流域での絶滅が危惧されている。

3. 結論

アオバラヨシノボリの減少原因として下記の事項が考えられる。

- 羽地ダムの建設及びダム湖の出現により、羽地ダム上流域に生息するアオバラヨシノボリの生息範囲が大幅に縮小した。
- クロヨシノボリやアヤヨシノボリといった回遊性ヨシノボリ属がダム湖で陸封化され、捕食者の少ない環境で多くが生残し、大量の個体がダム上流河川へと遡上した。
- 生息範囲が縮小することで環境の多様性が低下し、渇水や洪水などの影響を受けやすくなり、生息環境の不安定化が生じた。
- 羽地大川水系のアオバラヨシノボリは、生息範囲の縮小、生息環境の不安定化及び増加した同属他種との競合といった要因が複合的に作用し、減少したと考えられる。

4. 今後の問題点

平成22年度も羽地ダムにおける調査を継続し、アオバラヨシノボリの現況把握に努める予定である。

また、羽地ダムにおいて実施されたモニタリング調査では、10年間という長期にわたり断続的に同一手法による調査が行われてきた。蓄積された情報については、今後の他の生物の影響予測や、保全に役立つものと考えている。そこで、これまでに蓄積された情報については、あらためてとりまとめを行い、専門家等と協力しながら利用できる形で残したいと考えている。